

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100270		
法人名	医療法人 善昭会		
事業所名	グループホーム菜の花関2		
所在地	大分県大分市大字佐賀関335番地		
自己評価作成日	平成29年6月17日	評価結果市町村受理日	平成29年9月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成29年7月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にその人らしく、自然と共に、地域と共に掲げています。
出来る限りその方の家庭生活と同じように、地域とも関わりを持って生活して頂けるように支援を行っています。
グループホーム菜の花関2は、周囲を山と川に囲まれ大変情緒豊かな所に有り、四季折々の季節を感じる事が出来ます。地域の行事にも、積極的に参加しています。昔見た蛸鑑賞、花火大会、自然の中で色づき始めた紅葉や果物の実りも散策中の楽しみです。職員さんをご入居者様が一つの家族になってゆくなり、安心して生活を送る事が出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・緑あふれる森に囲まれて海よりもほど近い所に位置しており、野鳥のさえずりも心地よくのんびりと過ごせる環境にある。
・職員同士はとても仲が良く、利用者とも気心が知れ自然と会話が生まれ笑いがあふれている。
・利用者のこれまでの生活歴や今の情報を職員全員で共有し、介護度の現状維持に努めている。寝たきりで退院してきた利用者で車いすでの生活ができるまでに生活の質が向上した実例があり、何が利用者にとって一番かという事を考え毎日の支援にあたっている様子が伺える。
・地域との繋がりも多く、行き来が頻繁である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然と共に地域と共に重度化されても、尊厳や権利を損なわず、その方らしいあり方を目指した理念です。ホール等に掲示し送り時に理念の確認を行い理念の基に何が有るのかを考えながら支援を行っている	人としての尊厳、自然の力を引出し地域の一員になるという理念を掲げ、利用者の支援にあたっている。ケアプランはこの理念に沿って組まれ、本人の希望を一番に考えて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から、定期的に行事案内を頂いている。元気サロンの運動会に参加や地域のバザー、防災訓練、中学校へは、継続して雑巾やペットボトルの蓋、などを届交流を行っている。	地域の行事には積極的に参加している。歩こう会やバザー、元気サロン運動会などに参加している。施設屋外にあるベンチでは利用者と地域の人と話ができ、地域の人から野菜や果物をもらったりして普段から付き合いがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で行われる行事や中学生の施設実習、研修時には、理解しやすい言葉で、事例説明などを行い、職員もレベルアップの為に研修に参加し地域支援に活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所のサービス内容報告、リスク発生などの取り組みについて、写真をつけ報告を行っている。又外部評価の結果や自己評価も報告を行い、ご意見や質問ご指示を頂いている	市担当者や地区の人、地域包括支援センターなどの参加があり、貴重な意見を多々頂き業務に取り入れている。リスクについての取組みを提言され検討している。出席者から歩こう会やバザーの参加を勧められ、実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに、市の職員さんがいる。市主催の研修参加時や電話等で相談、連絡を行いご意見・ご指示・助言を頂き日常的に交流をしている	運営推進会議や市の研修会などで、市担当者には問題点・疑問点などに対し意見をもらっている。あんしんサポートの事や納骨堂について相談をしている。市とは普段に連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当職員さんが研修会を毎月開催しており、日常的に学んでいる。施錠については家庭と同じように夜間行い、ペット柵も手すりとして利用する以外は取り外している	身体拘束をしない事の研修を常に行い、職員全員の意識づけをしている。毎月テーマを決めて職員持ち回りで講師を務め勉強をしている。昼間の施錠はなく自由に行動が出来る。外に出ても職員がさりげなく見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	担当職員さんが毎月研修会を開催し、日常的に学び取り組んでいる。個別に研修会参加後には、報告を行い内容を共有している。スピーチロックも行わない支援をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護マニュアルや研修報告により、日常的に学び確認しながら取り組んでいる。後見人制度を利用している方もあり、つど連絡をとり活用させて頂いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居のご案内や重要事項説明を行い、事業所の取り組みや対応出来るサービスを時間をかけ、丁寧にわかりやすく説明を行い理解・納得して頂けるように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも、何時でも話せる関係作りをしている。入居者さんには専属の担当職員を設け、窓口を1本化する事で、訴えや相談がしやすい環境にしている。苦情相談担当者も設け対応している。	クリスマス会で家族からアンケートを取っている。利用者一人一人に担当職員をつけ、利用者・家族と馴染みの関係をつくり意見が出せる雰囲気を作っている。職員の顔と名前が一致しないと言う意見に対し、たよりに写真を載せるなど改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会を行い疑問や、相談など話合っている。又連絡ノートでも反映し勤務年数や一部職員の発言に偏らない、風通しの良い環境づくりをしている。	月1回の定例会や毎日の申し送り時などで職員の意見を聞いている。移動式テーブルがあれば外で食事ができるという意見から、テーブル購入につながった。シャワー浴やリフト浴について職員の意見より実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家庭と仕事が両立でき、公休希望日も取得できる職場です。チームワークを大切にしており育児休業後復職した職員も数名います。又子供さんの急変時には早退出来る環境です。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催される研修に職員が参加出来る環境です。研修で学んだ事は、全ての職員さんが実践指導を受け支援に繋がっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会・勉強会に参加時、同業者と交流している。地域包括支援センター職員さんとも運営推進会議時や、会報で情報交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者を中心に時間をかけ傾聴し、記録に残し利用者様を理解できる体制と関係作りに努めている。センター方式や研修で学んだシートを利用し入居後も不安が無いかわい、軽減に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居後より何度か面接と、傾聴を場所を変えて行いグループホームでのサービス内容の説明を行いつつ、ご家族のお困り内容も合わせて伺い出来る限りのご要望に沿える関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談内容によっては、可能な限り柔軟な対応を行い、必要と思われる事だけではなく、その時々必要とされる事にも柔軟に対応し他のサービスも提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ありがとうございます」と感謝を伝え合い相身互いとお互いを支え合っている。又そのような場面が多く持てる工夫も行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との時間を楽しく頂けるように、手紙、電話、外泊などをお願いしている。又毎月菜の花だよりをご家族や、希望される親族にも送付し現状報告をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染み店を継続して利用できるように、ご家族にもご協力頂いている。在宅生活と同じように馴染みの新聞継続利用できるように支援しています	これまで利用してきた理髪店に来てもらったり、家族に連れて行ってもらったりしてつながりを継続している。地域の小物屋や購買会にも行っている。購読新聞も継続して読んでいます。これまでと生活が変わらないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い利用者さんで、お話しをする機会を作り、新聞の受け渡し、食事やおやつのお誘いの言葉かけを通じて、関わり合える支え合える関係が保てる支援をしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の利用者さんが多く退所後もご家族の方と逢う機会も多く、経過を伺い場合によっては、再入居の申し込みや在宅生活、ご家族の相談にも柔軟に対応しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にセンター方式の用紙を利用し生活歴から意向を汲み取り、困難な場合は会話や表情、ご家族に再度伺いながら、疑似的に意向を組込把握に努めています。	入居までに家族から、本人がこれまでどんな生き方をしてきたかを考えてもらい、生活歴や本人・家族の希望を聞いてアセスメントに反映している。日常の関わりの中でどう考えているか、どう暮らしていきたいかの思いを汲みとって支援に当たっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴シートを作成し、都度見直しや傾聴などで変化があった場合は、後書きとして記入を行い、日々把握が出来るように、記録ノートにも記載し見逃さないようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々生活パターンを把握、出来る事を探しケアプランに反映し日々のモニタリング、気付きノート等で、情報交換、現状のADLの確認と把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の個性を大切に、出来る事が一つでも増えるように、昔得意だったことや好きな事、楽しい事を重視し、ケアカンファレンス以外でも、気付きノートを作り意見を集約しケアプランに反映している	職員みんなで話し合い、利用者にとって望むことは何かを第一に考えている。気付きノートを活用し、利用者の今の状態を職員全員が把握しケアプランに反映されている。手を出すこと、出さない事の統一した支援に心掛けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の書き方を工夫し、主観を入れずご本人の言葉を用いて記入し、職員間の情報を一元化し共有して、見直しや気付き、評価を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や思い、ご家族の意向に配慮し急な外出、外食、外泊、受診等の付き添いなど、基本的に希望時には、出来る限りすぐに対応を行う、柔軟な体制をとっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議での情報交換、毎月来訪して頂いている地域美容室、移動販売の方馴染み店での買い物時には、言葉かけの協力依頼など行い、楽しむ生活が継続出来る支援を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医に情報交換を行っている。通院時には、職員又はご家族が同行し適切な時に受診出来るように複数の医療関係と密に連絡を取っている	入居前より利用していたかかりつけ医を継続して受診できる。状態の変化と共にかかりつけを希望により変えることができる。通院は家族が行けない時は職員が同行し、受診前に家族と連絡取り受診後は結果を報告し、記録を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接する事業者には看護師やリハビリを行う職員がいるので、つど健康管理や医療面での相談助言の対応が出来、提供医療機関との連携も24時間体制を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には必ず職員または、ご家族が同行しご本人の状態報告をしています。必要に応じてご家族、関係者と情報交換を行い早期に退院出来るようなアプローチ、退院後の通院支援も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針を用いて十分にご説明し、話し合い、契約者を交わしている。主治医、職員にもご家族の今の思いや、経過中の気持ちの変化を伝え対応している	契約時に重度化した場合の希望を聞いている。看取りについて毎月内部研修をしている。看取り後の家族に対するケアも行っている。終末期はほとんどが病院を希望しているが、将来的に施設として何をどこまでできるか、常に研鑽を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成している。又緊急を想定したシュミレーションを時々行い即、対応出来るようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の防災訓練に職員が参加しその様子をDVDで職員や地域の方、ご家族にも確認して頂き、避難経路と要する時間を確認し、又地域住民の方がお助け隊として参加一斉連絡システムも構築している。	年2回昼夜想定避難訓練を行っている。火災・地震・津波様々なケースにより避難方法を考えている。施設内に3日分の備蓄がある。法人の職員が施設近くに住んでおり、非常時にはすぐかけつけるように役割分担がしっかりできている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには、特に尊厳とプライバシーを重視した配慮を行っている。研修参加者が報告を行い、常に新し情報を取り組んでいる	一人ひとりの人権を重視し、プライバシーを損ねないように考えたうえで本人が心地よい呼び方で呼んでいる。元々の言葉づかいや利用者がわかり易い言葉で接している。画一的でなく個性を大事にして支援にあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向を重視し、認知症が重度になってもその方の、過去のデータ等により疑似的な表現方法を用いて支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れは有るが、基本的にお一人ごとの、その日のペースに合わせ支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院が継続利用できるように支援を行っています。入浴後は化粧水などの利用を勧め、不定期ではあるがお化粧を行う支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け、米とぎ食器の片付けなど、その方の能力に応じて楽しく出来るように役割分担をお願いしている。職員も無償で同じ物を食べ、家庭的な雰囲気作りを行っている。	調理は外注であるが、配膳・後片付けなどできることを一緒に楽しく行っている。食べたい物があればメニューに反映している。日曜日は手作りのおやつを作る。誕生会など各行事にあった料理が提供され食事が楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の調理員が調理の献立を作成している。食事摂取量、水分摂取量は個別に記録している。おやつやの時間、深夜、入浴後など個人に合わせ支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後口腔ケアの促しを行い記録として残しています。異常時や希望時には、必要に応じて歯科医師に連絡し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別のチェック表でトイレ誘導を行っている。排泄パターンや表情、表現に気をつけ夜間はポータブルトイレを利用されている方も日中はトイレ誘導を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中はほとんどトイレ使用で、自立に向けて支援が行われている。夜はぐっすり眠ってもらうため無理には起こさずオムツ使用の場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は身体状態の悪化をきたしやすい為、個別に乳製品や散歩、リハビリ活動を取り入れ、出来る限り自然排便に結び付けた支援を行っていますが場合によっては服薬による調整も行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜日以外は(急変を考慮)好きな時間に入浴できるように支援を行っています。個別に入浴時間の希望を伺い、柔軟に対応しています。リフト浴も設置しています	希望すればいつでも入浴する事が出来る。仲の良い人同士一緒に入浴する事も可能である。入浴を拒否する時は無理強いせず様子を見て、入りたくなるような声掛けなどで入浴をうながしている。リフト浴があり安心して入浴を楽しむことができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、興味ある事を取り入れ活動を促し、生活リズムを整えている。夜間不眠時には、暖かい飲み物の提供、傾聴を行い不安にならない支援を行っている。継続する場合は、主治医に相談しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋をファイルしている。指示書は、申し送りを行い把握している。複数の医療機関を受診されている方には、情報提供を行い共有と早期発見に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や残存機能を生かした支援を行っています。又お礼の言葉かけを行い、自信と意欲が保てるように心がけ、行きたい所への外出支援は、出来る限りすぐに対応しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間を通じて、外出やレクリエーションを計画しています。個別支援では、自宅訪問、買い物、外食などの支援を行い地域行事にも職員と参加しています。	年間のレクリエーション計画を立てている。万光寺の祭り、イルミネーションの見物などに行き、帰りにコンビニで買い物を楽しんでいる。施設内にある桜を見物し、皆でランチを楽しんだりしている。誕生日には外食に出掛けるなど個別に対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別で少額をお小遣いとして管理されている方や、事業所でお預かりしている方もいます。移動販売車や地域の折り込み広告で買い物希望される場合は、同じ商品が購入できるように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	長期訪問がないご家族には、状況に応じてお伺いの電話をしています。毎月送付している菜の花だよりには、写真なども同封しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆さんが集うホールスペースは、テレビを中心に配置し皆さんの作品も展示している。玄関前ベンチでは、仲の良い人達が外気浴、自然と馴染んだ会話ができる人気のスペースとなっている。	ホールは採光が良く明るい。ソファやベッドが置かれ自由にくつろげるように工夫されている。壁には利用者の作品が飾られ、色々活動している様子が伺える。婦人会と呼ばれる集まりがあり会話を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチ、椅子を各場所に配置し少人数や一人の空間を考慮した配置をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年利用した馴染みのもの、愛着品を持ち込んで頂く事や家族写真を貼り、寂しい思いや孤独感がないように工夫している。冷蔵庫の持込み、居室での飲食も主治医に相談し柔軟に対応している	これまで使い慣れた物などを家から持って来て飾っている。家族の写真などが飾られており、一人じゃないと思わせるように工夫されている。希望者には冷蔵庫を部屋に置くことができ、好きなものを買って自由に食べる事が出来る。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には、残存機能を生かせる手すりや可動式ベンチを設置している。全介助の方にも、安心安全に入浴が出来るように環境整備も含め支援しています		